

第 11 回 米代川水系河川整備学識者懇談会 議事概要

日程：令和 3 年 11 月 15 日（月）14:00～16:00

会場：能代河川国道事務所 第 1 会議室

○：委員からの質問・意見

●：事務局・座長からの回答

議事：米代川総合水系環境整備事業の事業再評価について

- 説明資料 P.16 に「コスト削減として、自発的な清掃活動等がいい効果である」と報告されているが、詳しい状況を知りたい。
- ボランティアによる清掃活動として、県や市町村が主体となって「米代川クリーンアップ」を春に実施している。また河川活動団体が主体となって「米代川流域一斉清掃」を 8 月の第 1 週に実施している。
- ボランティアが河川清掃を実施することによって、必要な清掃がしっかり行われているのか。また河川清掃をやりたくてやるのであれば問題無いが、頼まれたから仕方なくやっているようなケースもあるのではないかと。経済的には作業時間をコストに換算するとあまり変わらないように思うので、民間の業者にやってもらうという考えは無いのか。
- 民間の業者に発注する場合は経費が高くなり、地元にお願いとすると経費がかからない。今後も地域の方々と協議しながら進めていきたい。

- 説明資料 P.10 に「改善の必要性があると判断した場合には必要に応じて事業計画を立案」とあるが、具体的な立案はどのような形で考えているのか。ヤツメやシラヤ、アユ、サクラマス等、米代川のシンボルとなる魚について、生息・生育環境の再生等を実施する必要性があるかどうかは、きっちりとした調査が必要であり、具体的なビジョンを一緒に考えていけたらよい。
- 米代川水系の環境を維持、または自然の再生に関する事業の必要性については、先生方の助言を頂きながら、これから検討していきたい。

- 生物の多様な生息・生育環境の確保に関連して、水生生物については水質が良好であることが重要となるが、米代川の支川等において鉱山廃水の処理水の問題がある。十二所水質基準地点では、亜鉛の環境基準を超過することがある。ヒラタカゲロウ等の水生昆虫は、魚類の餌となり、生態系の高次化に欠かせない生物であることから、水質対策は多様な生息環境を確保する上で不可欠である。亜鉛濃度のモニタリング調査だけではなく、水辺整備とセットで発生源対策に繋げる発想が今後大事ではないかと考える。
- 十二所水質基準地点では、通常は河川の環境基準はクリアしているが、上流部の鉱山において、強い降雨があったときに排水基準を上回る鉱山廃水が排水された事例があったと聞いている。また今後の米代川の環境を維持していくためにも、関係部署と情報を共有しながら対応していきたい。

- 説明資料の P.16 に、「米代川総合水系環境整備事業については事業継続が妥当である」、「改善の必要性がある場合には事業計画の立案を行い」との記載があるが、今後、米代川総合水系の環境整備事業が継続するとすれば、今日の会議では新たに何をやるかという意見を出してもいいのか。
- 今日は3つの地区の事業評価であり、新しいことに関して議論する予定はない。(座長)

- 米代川は普段は母なる川であり、市民にとって憩いの水辺であるが、一旦荒れると大変な被害をもたらす川である。藤琴川、阿仁川の2つの川が一気に溢れると米代川に一瞬に流れ込み、過去大変な被害を被ってきた。しかし、平成19年に大きな被害があった以降、能代市ではそういう被害がなくなった。
一方、まだ堤防の無い箇所もあり、ぜひとも今の河川能力を上げるためのより一層の努力をお願いしたい。
- 大館市の2つのかわまちづくりについて、整備事業が終わった後、地域住民の皆さんから、かわまちづくりを私事だと捉えてもらっている。
根下戸地区や扇田地区もかつては舟運の基地であったことから、米代川が紡いできた県北地方の歴史を街づくりに位置づけられれば、更なる利活用の可能性は広がると思う。
また水質についても、しっかり紐解いていかないと米代川全体の水質を守っていくという高い意識には繋がらないと思う。

- 説明資料 P.16 に、「水辺整備に対する効果が確認されている地域」としているが、具体的に地域の名前を出した方がいいのではないか。
 - 具体的な箇所名を明記した方が正確に伝わると思うので、地区名を記載する。
-
- 扇田地区、根下戸地区では年間利用者数が増えており良い傾向である。利用者数の内訳を見ることで、整備内容やイベント内容による効果が具体的に把握できる。利用者の内訳を詳細に示すことは可能か。
 - このデータは河川水辺の国勢調査のデータを使っている。この調査では調査日時が決まっており、ちょうどそのときにイベントを行っていけばカウントされるが、そうでなければカウントされない特性があるため、その箇所のイベントが正確に反映されるかはもう少し分析しないと分からない。今後の改善点である。
-
- 説明資料 P.9 の各年度のカヌー利用者数について、整備後にカヌー初心者の利用率が非常に上がっていると読み取った。ただこのカヌー初心者の居住地は事業箇所から 14km の中に入っているのか気になった。そのあたりを把握しているか。
 - カヌーツーリング利用者の細かいデータは把握していない。
 - アンケートの 1 つの指標になるかと思うので、カヌーを利用する人がどこから来たのか調査をお願いして利用するといいかと思う。
 実際、遠くから来た人もかなり多いと思うので、今回の CVM のベネフィットには現れない新たな価値という見方もできるかと思う。
-
- 米代川では非常に蛇行している場所があり、二ツ井地区の道の駅の箇所もそうであるが、近年、降水が多かった時に洪水の被害はなかったか。
 また、鳥類について、米代川ではカワウが多く飛来して、アユ、ヤツメ等の食害まで出ていると聞いている。環境影響調査を行う際は、生物全体のモニタリングを行い、その中でどうしていけばいいのか検討する形をとって頂きたい。
 - 二ツ井地区は、整備後に洪水による大きな被害はなかったが、遊歩道が高水敷にあるため、出水があると冠水する。今年は 3 回くらい冠水した。
 また、カワウによる食害については、地元漁協等から情報を聞いている。河川管理者が事業として対応することは難しいが、関係部署と情報を共有して協力していきたい。

- 説明資料 P.16 の「③コスト削減の視点」について、地域の団体による自発的な除草や清掃が行われるなど地域との協力体制が構築されている中で、維持管理における地域の団体が行う清掃活動が、コスト削減の視点と捉えてよいのか。
- 座長と事務局とで相談、調整し、後日委員に報告する。
【調整結果】 ※令和3年11月17日（水）全委員に報告済み
地域の団体が行う清掃活動については、労力や費やした時間を金銭換算した評価を実施していないので、コスト削減の視点から除外する。

審議結果について

米代川総合水系環境整備事業の事業再評価について

- 事業の継続は妥当と判断する。
- 審議結果は、後日開催する事業評価監視委員会に報告する。